

## どっこいしょ

Dokkoisyo

2016.4.14.(木) 創刊号

## 日日新

— 常に新しく、新鮮であれ —



▲ 正門の石碑「日日新」

新

平成28年4月1日の人事異動で、第13代江井島中学校長を拝命いたしました永田浩史（ながたひろし）と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

4月7日の着任式、始業式に続き、8日の入学式では、156名の新入生が入学いたしました。春休みの静かな学校という空間に、3学年の生徒がそろい、賑やかな歓声が戻ってきました。

始業式で2、3年生に向けて話した話題は、「日日新」という正門前の石碑に刻まれた文字について。これは中国の四書のうち「大学」という儒教の経書にある言葉です。

中国古代の殷、名君湯王（とうおう）が毎日使う手水（ちょうず）の盥（たらい）の底にこの言葉を刻んで、毎朝顔を洗うたびに自分の戒めとしたという伝説があります。毎日毎日を新しい日として迎え、その一日を意味あるものにして刷新、進歩していくことが大切だということでしょう。

毎朝通る正門にこの碑があるということも意味があります。私もこの碑の言葉「日日新」を心に刻んで、毎日新鮮な気持ちで過ごせたらいいなと思います。

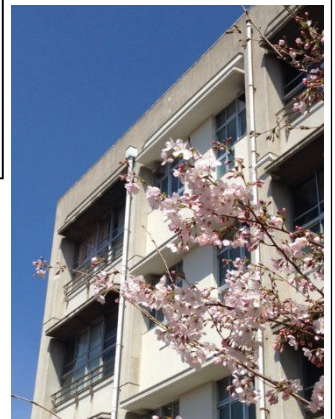
シン、あたらしい、あらた、にい  
木と斤（オノ）と音を表す辛（シン）から成り、おので木を切りそろえる意味。借りてあたらしいの意味に用いる。

## ■校長室の窓 タイトル「どっこいしょ」について

▼「明石のため池」（平成20年 明石市教育委員会）という本によると、谷八木から二見までの海岸線や川沿いには、戦前まで「どっこいしょ」あるいは「どっこんしょ」と呼ばれる湧き水があったそうです。現在ではその面影を見つけることはできませんが、人が生きていく上で、「水」は非常に大切なものであり、かけがえないものです。

▼「明石市水道史」（平成3年 明石市水道部）の中にある「水道史話」によると「どっこいしょ」（どっこんしょ）という名は、穴を掘るときのかげ声からついたとも、弘法大師の持つ杖の先端部分「独鈷」（どっこ）から取られたとも言われていますが、その由来は定かではありません。地下水が、竹筒で地表に導かれ、絶えずあふれ出ている人工泉というようなもので、付近の人はその水で洗濯をしたり、炊事をしたし、子どもたちは海から上がって体を洗ったり、のどをうるおしたそうです。川岸や海岸など地形が低くなっている所に見られるもので、谷八木や江井島に多かったと言われています。

▼今、中学校の学校だよりを創刊するにあたり、子どもたちや保護者の皆さま、地域の方々に学校の様子を伝えるものとして、「どっこいしょ」というタイトルを付け、絶えずあふれ出す、さわやかで気持ちの良い「たより」にすることを考えました。今後も中学校の歩みを、皆さんとともに共有できるよう努めたいと考えています。



▲ 玄関前の桜



▲「どっこいしょ」のイラスト  
「明石市水道史」より  
伊藤 太一氏